

米国景気 二番底懸念の台頭（～過去の二番底当時の環境を紐解く～）

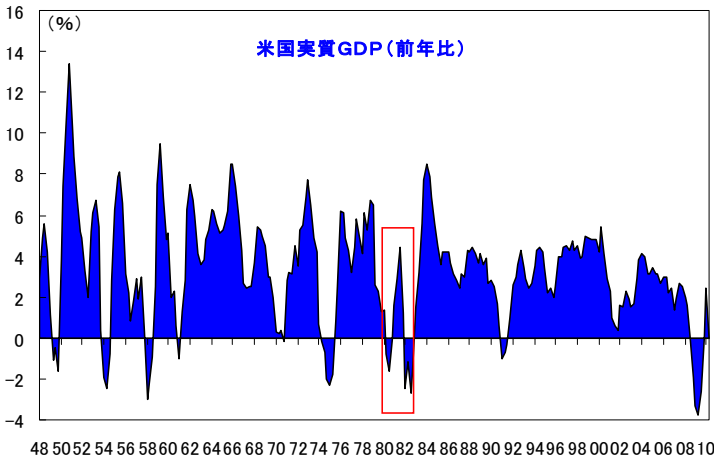
✓ 米国景気が二番底に陥ったのは、ここ約60年間で一度だけ。

● 予想を下回った5月、6月の民間部門雇用者数や景気の先行指標である株価の急落等を背景に、米国景気の二番底懸念がじわり台頭しています。ちなみに、ここ約60年間の歴史の中で米国景気が二番底を付けたのは一度だけです(図表①囲い部分)。

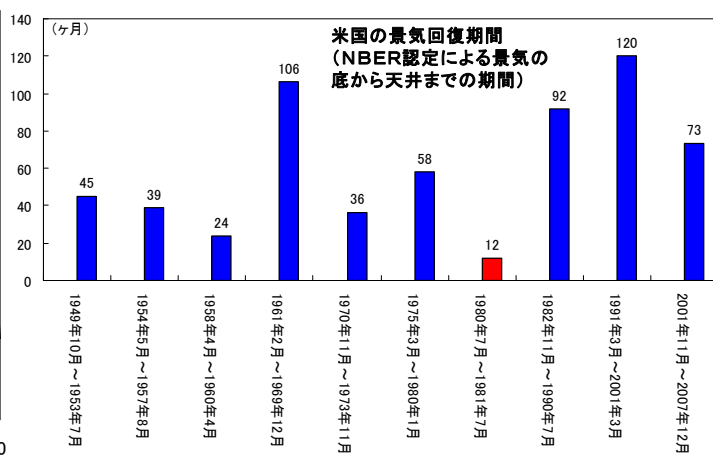
● 全米経済研究所(NBER)の景気循環認定によると、1980年のリセッション(景気後退)が終了し、その後、景気がピークアウト(天井をつける)するまでの期間は、ここ約60年間で最短の12ヶ月間でした(図表②)。その後、米景気は二番底に向かいました。ただ、この時は、2ケタのインフレに対処することが優先され、大幅な利上げが実施されたため、回復途上にあつた景気が打撃を受けたという特殊事情がありました(図表③囲い部分)。

● 全米供給管理協会雇用指数は失業率の先行指標として有効です。同指標の底打ちと、NBERの景気の底認定は一致していることが多く、遅行指標である失業率はNBERの底入れ認定後、時間差をおいて改善する傾向があります。現在は、全米供給管理協会雇用指数は大幅改善中、失業率は高止まりしています(図表④)。二番底懸念の火付け役となった、雇用統計が、今後改善傾向に向かい二番底懸念が払拭されるのか要注目です。

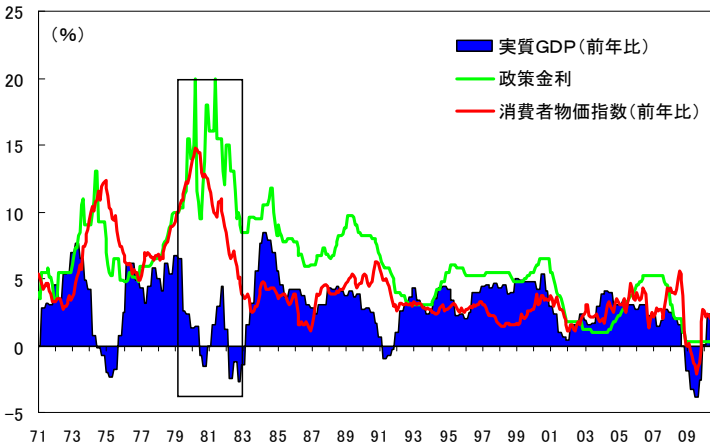
【図表①】



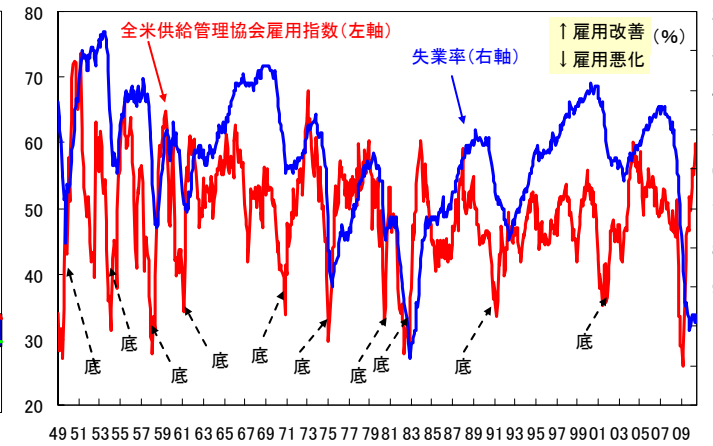
【図表②】



【図表③】



【図表④】



出所: 図表①～④は、ブルームバーグとNBERのデータを基にニッセイアセットマネジメント作成

当資料は市場環境に関する情報の提供を目的としてニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。当資料のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。
<審査確認番号H22-TB66>